

# 造林とその活用に打ち込む

京極町森林組合

清水晴夫さんに聞く



山づくりと木材活用に情熱をそそいで42年道内屈指の業績を上げられている京極町森林組合の清水理事長さんをお訪ねし、今までの歩みから、今後の対応までいろいろ聞かせていただきました。（編集子）

## この道四十余年

—— 京極町森林組合の組合長として、道内屈指の業績を上げておいでになる清水さんですが、また、北海道森林組合連合会理事や京極町議会議員など重要な任務に就かれ、幅広くご活躍になっていらっしゃいます。今日は、いろいろお聞きしますが、まず、組合長さんが林業・林産業のお仕事に入られたいきさつから、お話を伺いたいのですが。

清水 倶知安の道立農業高等学校を卒業して京極町森林組合に就職したのが昭和21年です。今年で42年になりますね。振り返ってみますと、いろいろな思い出があります。組合が借金で大変苦しかった時期もありました。第一次林業構造改善事業の指定を受けて以来、造林を一生懸命にやりました、その頃から業績が伸びていったのです。お蔭で今、伐期を迎え活用を図っているところです。町議会のほうも、町議として京極町の林業・林産業の仕事をしてきましたが、そのほかに町の農業関係の仕事もやってきました。また、町の観光施設整備の仕事も仰せつかって進めています。この観光と森林とは実に密接な関係にあります。

## 憩いの森づくり

—— 最近、木材生産以外の森林の総合的利用への取り組みが新しい課題になっていますが。

清水 そうですね。最近の都市住民の緑・森林・ふるさとへの回帰志向にそって、環境保全と山村社会の活性化を図るため、都市住民の憩いの森づくり・公園づくりなどを推進する必要があると思います。

「えぞ富士」の名で知られる羊蹄山の京極町にある噴き出し口から湧き出る水は、日量8万トンといわれ、さまざまな無機質を含んだミネラルウォーターで昭和60年には日本名水百選に選ばれております。この京極町の名勝になっています「噴き出し公園」は整備も順調に進んで、さらに魅力的になりました。広葉樹を主体とした原生林に囲まれたこの公園は、八つ橋が架けられ、池のほとりには円柱材づくりの東家<sup>あずまや</sup>なども整備されて、ゆっくりとくつろげる憩いの場となっています。

組合は、63年度の事業の中に森林の総合的利用として、都市住民の「憩いの森」づくりを計画し進めているところです。

## 町面積の80%が森林

—— 京極町は元、東俱知安村であったと聞きます。地域の概況についてお伺いします。

**清 水** 本町の開基は明治30年、京極農場に始まります。四国の旧丸亀藩主京極氏はこの地の開発に努められましたが、昭和13年に700町歩あった京極農場を開放されました。寛容な決断が高く評価され、昭和15年に東俱知安村から京極村に改められたのです。今でも、町民が香川県丸亀を訪れますと、そのご縁で大変な歓迎をうけます。

本町は道央の西部、羊蹄山の東裾に位置し、東は札幌市、西は俱知安町、南は喜茂別町、北は赤井川村にそれぞれ隣接しています。東西14.3km、南北13.8kmの町で、周囲を山岳に包囲され、気候は内陸的で日中と夜間の温度差が大きいのが特徴です。土地利用の形態別面積から申しますと、町の面積が23,239haで、内訳は森林が79%で18,391ha、田畑が11%で2,570ha、その他は宅地や原野などです。森林の内訳は、国有林が8,489ha、道有林が920ha、町有林が944ha、民有林が8,038haとなっています。

## 山づくりに取り組む

—— 組合の設立から今日までの歩みについて、お話しただけでしょうか。

**清 水** 組合の設立は昭和17年で、旧森林法による追補責任京極町森林組合でした。その目的は森林の保全および資源確保などでしたが、また、国家目的としての戦争遂行の資材調達、集荷配給の機関でもあったわけです。昭和26年、戦後の占領政策として民主化の方針にしたがって、森林法が改正されました。この改正により、行政の補助的機関としての性格の強い旧組合から、組合員の加入・脱退の自由、議決権・選挙権の平等などの協同組合原理に基づく新制度に移行することになり、当組合も昭和27年に組織変更し、現在の京極町森林組合になりました。

組合は、事業の一つとして製材工場を経営してきましたが、昭和21年に鳩沢木工場を買収して始めたのがきっかけです。当時、高谷木工場も営業していましたがやがて閉業し、また、鳩沢木工場



も当組合に売渡し後、京極駅前に木工場を新設して営業を始めましたが、昭和48年に火災のため閉業しました。組合は昭和37年、国道276号の路線変更に伴って工場を移転し、さらに昭和50年に春日の工業団地に工場を新築して現在に至っています。

戦後の日本は、1,000万haという大造林を成し遂げましたが、本町においても森林資源の重要さを考え、行政のご指導をいただいて早くからカラマツの人工植栽を、また、続いてトドマツ・エゾマツの植栽も実施してきました。町と森林組合が主催で、昭和44年から毎年のように造林コンクールを実施して優れた造林地を表彰するなどして、造林に力を注いでまいりました。昭和43年に後志管内のトップとして第1次林業構造改善事業の指定を受け、昭和48年と49年に追加事業も認められ、さらに昭和50年には第2次林業構造改善事業の指定を受けまして、経営基盤の充実、資本装備の高度化、協業推進、森林総合利用促進等の事業を進めてきました。お蔭様で今日の山に成長しました。

## 伐期を迎えて活用をはかる

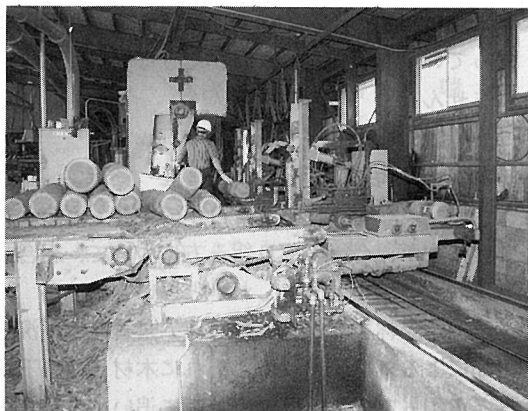
—— 事業の概要についてお伺いします。

**清 水** 主要事業の昭和62年度の実績で申し上げますと、組合員・木材業者から買取り販売する販売事業が17,974m<sup>3</sup>、組合直営生産の林産事業が4,172m<sup>3</sup>です。加工事業は、製材が2,682m<sup>3</sup>、賃びきが248m<sup>3</sup>、チップが2,073m<sup>3</sup>、それにパレッ

トが9,083セットでした。円柱加工事業は、円柱材などが570m<sup>3</sup>、賃びきが102m<sup>3</sup>、合わせて672m<sup>3</sup>です。養苗事業は、約49,000本で、その96%はカラマツ、4%はトドマツなどです。購買事業は製材が主で712m<sup>3</sup>、その他としては建材、チップなどです。利用事業は造林が34ha、下刈りなどが500ha行いました。

—— 製材工場の概要をお聞かせください。

清水 製材工場の用地は23,595m<sup>2</sup>、建物は工場、付属建物合わせて1,712m<sup>2</sup>です。電力は285KWです。工場の機械設備は、全自動送材車付き帯のこ盤1台、ツインバンドソー1台、テーブル帯のこ盤1台、背板用のUFC-32A型チップ機が1台、パークシュレッター1台、バーカー1台、フィンランドのパロンコーネ社製のVKバーカー1台を設置しております。また、工場、林道、造林、苗畑などの作業能率を上げるため、



製材工場

フォークリフト、ブルドーザー、ログローダー、クレーン、トラクター、除雪ローターなど合わせて28台を使用しております。

—— 販売・林産の事業における需要別数量の内訳はどのようになっていますか。

清水 雑パルプ用が8,072m<sup>3</sup>、カラマツパルプ用が1,243m<sup>3</sup>、一般用材が7,630m<sup>3</sup>、杭木・杭丸太・小丸太が2,857m<sup>3</sup>、雑用材が1,077m<sup>3</sup>、椈丸太が652m<sup>3</sup>、雑薪炭材が509m<sup>3</sup>、足場丸太が106m<sup>3</sup>で、合わせて22,146m<sup>3</sup>になっています。

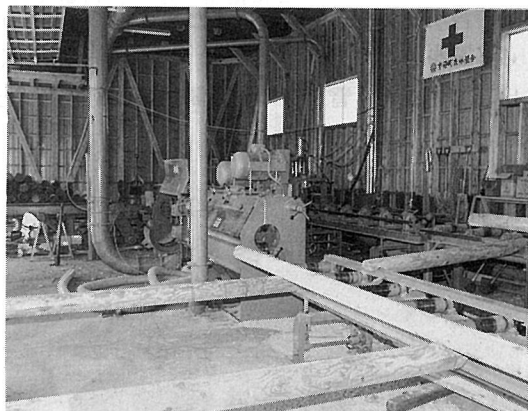
ウッドイエジ 1988年11月号

さきほど申し上げました山づくり、一生懸命に育て上げた人工林は、今ちょうど伐期を迎えているところです。加工、販売にも一層の努力をしていく考えです。

## 校倉ハウスと円柱材

—— 円柱加工事業についてお聞かせください。

清水 昭和60年2月、円柱加工工場を設けて円柱の製造を始めました。円柱加工機は、西ドイツのベッネル社製のもので、この機械で作った円柱は、肌が奇麗だと皆さんに喜ばれています。欠き込み機は新宮商行製です。ご承知のように、今日、「北海校倉ハウス」と命名されているログハウスを研究開発された北海道立林産試験場さんの技術指導をいただき、北海道林産技術普及協会のログハウス建設部会に入っております。この



円柱加工工場

「北海校倉ハウス」は、昭和59年に日本建築センターの構造評定に合格、翌60年には建設大臣の特別認定書の交付を受けました。昭和61年に建設省から丸太組工法の告示が出て、150m<sup>2</sup>未満のログハウスは市や支庁の手続きで済むようになりましたので建てやすくなりました。

最近、ログハウスに対する一般の関心が高まっています。その理由は、何よりも暖かみを感じるせいでしょう。特に自然環境と良く調和するからだと思います。組合では、これまでに円柱材を使っ



北海校倉ハウス（真狩村のセカンドハウス）

校倉ハウス、フェンス、看板、遊具などを作ってきました。組合で作った円柱は肌が綺麗なせいか大変な評価をいただいております。ご覧のとおり京極町にも、ログの看板、フェンス、公園の東屋などいろいろ設置していますが、最近、バス停の待合所をログ建てにしてみたところ、皆さんから好評をいただきましたので、今後、一般に広く出していきたいと普及型の研究開発から商品化へと進めているところです。



北海校倉ハウス（余市町のテレホンハウス）

## 真狩村森林組合と合併

—— 今年、真狩村森林組合と合併されたと聞きましたが。

清水 森林組合の現状は地域の林業の振興を図る上で重要な役割を果たしていますが、個々の森林組合の組織経営基盤のいかんによっては事業活動に差があります。それで、適正な事業経営で行なうことができる組合を育成して組織の健全な発展に資するため、昭和38年に森林組合合併助成法が制定され、62年にはその一部改正があり、67年3月までの間を第四期の合併促進期間として取り組まれております。

行政のご指導もあり、真狩村森林組合を合併することについて、両組合の話し合いが行われてきました。当組合員の中でも、合併についていろいろな意見がありましたが、63年2月の通常総会で承認をいただいた次第です。私は、ご指導にあたる行政を仲人とすれば、合併はまさに見合い結婚だと思います。見合い結婚は月日を経る程親密になっていくものです。また、そうならなくてはなりません。

## 組合員の結束で事業の推進を

—— 「森林、林業は百年の大計」といわれていますが、今後の取り組み方について、組合長さんのお考えをお聞きしたいと思います。

清水 林業界は、この10年、未曾有の不況と円高による外材輸出攻勢、それに木材価格の下落などによって、有史以来の苦境に追い込まれてきました。昨年来、建築数の増加から木材需要が多少持ち直してきましたが、まだまだ楽観はできません。森林組合の果たすべき役割は大きく、今後、地域の森林・林業が発展し得るかどうかは、森林組合の取り組み方いかんにかかっています。

当組合は、昭和63年度事業として、関係指導機関と連携を密にし、将来の期待をかけた森林の造成など、地域に密着した幅広い山づくりを積極的に進めています。また、低迷している林業を逆手にとって、森林空間の有効活用策として、さきほど申し上げましたように「憩いの森」づくりに取り組んでおります。販売部門では、カラマツ丸太

は公共事業用向けの杭・土木用材に、短材および土木用以外はパレットや梱包用製材に、良質材は円柱加工製品、特にログハウス向けにそれぞれ活用していきませんが、カラマツパルプ用や雑パルプ用についても一元集荷し、系統販売にのせて道内、道外を問わず積極的な販売活動を図っています。購買部門では、一般住宅向け製材、公共事業向け建材および62年度後半から動きの良くなった本州向けカラマツ製品を取扱い営業活動を展開しております。利用部門では、本組合の事業地域である隣接町村が、本町同様に森林整備事業実施指定を受けるので、関係機関のご指導のもと、造林の推進や林地の斡旋等の地区を拡大し、それと

共に事業量の増加も図り、さらに前年同様、保安林改良事業も進めています。金融部門では例年どおり、林地取得資金、造林資金、林業改善資金の転貸事業を行っております。

これらの事業は、森林組合、林業者一人ひとりが自らの使命を自覚し、一層の努力を続けてこそ成し遂げ得るものです。全員が一丸となって、この厳しい中を事業推進にあたりたいと思います。

—— 本日は、お忙しい中、貴重なお話をいろいろ承り、本当に有り難うございました。

(文責 山内 賢治)

## 京 極 町 森 林 組 合

設 立 昭和17年  
" 27年改組

役 員	組合長理事	清 水 晴 夫
	理 事	長 壁 国 夫
	"	森 直 一
	"	西 方 清 徳
	"	猪 尾 八 郎
	"	佐々木 幸 男
	"	船 場 実
	"	横 内 季 明
	"	藤 川 照 雄
	"	印 南 繁 雄
	参 事	山 田 雅
	代表 監 事	紺 谷 喜 作
	監 事	田 村 政 義

営業種目	① 指導事業
	② 販売事業（買取り販売）
	③ 林産事業（組合直営生産）
	④ 加工事業 製材、チップ、パレット他
	⑤ 円柱加工事業 円柱材他、賃加工
	⑥ 養苗事業 カラマツ、トドマツ他
	⑦ 購買事業 製材、チップ、建材他
	⑧ 利用事業 造材、下刈り他
工場設備	製材設備1式、円柱加工設備1式
事務所	北海道虻田郡京極町字春日170番地 電話 0136-42-2211

社団法人 北海道林産技術普及協会では機関誌ウッドィエイジ  
(B5版)の特集号を頒布していますのでご利用下さい。

価格はいずれも実費 ( )内は送料

・特 集 号

カラマツを使ってみませんか	(昭和56年)	25頁	400円	(170円)
Theおがこ	(昭和58年)	26頁	400円	(170円)
窓(木製サッシの実用例集つき)※	(昭和59年1月号)	35頁	700円	(240円)
木材乾燥	(昭和59年8月号)	43頁	800円	(50円)
木材工業とマイコン※	(昭和59年11月号)	17頁	340円	(170円)
木製軽量トラス※	(昭和59年12月号)	16頁	320円	(170円)
木の良さ再発見	(昭和60年1月号)	22頁	300円	(45円)
今なぜ広葉樹か※	(昭和60年3月号)	22頁	440円	(170円)
カラマツ・セメントボード※	(昭和60年10月号)	43頁	860円	(240円)
単板積層材※	(昭和60年11月号)	30頁	600円	(240円)
キノコ(その1)	(昭和61年3月号)	29頁	500円	(45円)
木材の農畜産業への利用※	(昭和61年5月号)	27頁	540円	(240円)
「木の家」百年持たせませす	(昭和61年9月号)	23頁	700円	(45円)
キノコ(その2)	(昭和61年11月号)	23頁	600円	(45円)
林産試験場の成果	(昭和62年1月号)	43頁	800円	(50円)
林産試験場移転整備	(昭和62年5月号)	25頁	700円	(45円)
日曜大工のすすめ※	(昭和62年6月号)	24頁	480円	(170円)
木材乾燥	(昭和62年10月号)	24頁	800円	(45円)
木造住宅の保守管理	(昭和62年12月号)	23頁	800円	(45円)
木の良さ・木の香りを教室へ	(昭和63年7月号)	33頁	800円	(50円)
木質飼料	(昭和63年10月号)	17頁	600円	(45円)

註：品切れの場合はコピーになります。※印はコピー。